

祝 辞

二十歳を祝う会へ出席の皆さん、おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が未だ終息できない中、開催を危ぶんでおりましたが、皆さんの元気な姿を拝見し大変うれしく思っております。

今日の祝う会を契機に二つの事については是非考えていただければと思います。

一つ目は、『命の大切さについて』です。

今年もまた、先日のですすきの殺人事件、母親の友人を刺殺し警官を銃殺した事件、交際女子大学生を刺殺した事件などおごい事件が続き、けがれの無い嬰兒の育児放置や虐待で死に至る悲しい事件等も毎日のように報道されております。

高齢者の虐待、生活苦、中高校生のいじめに耐えられず、自らの命を絶つ悲しい状況も報道され

ております。要因は、単純ではないと思いますが、命を軽んじる行動は、あまりにも短絡的過ぎると思います。人生は、自分の思いどおりにならないことのほうが多いのですが、若い頃の失敗は学ぶことが多く、後々の貴重な体験となります。

感染症の不安、物価上昇等々、社会情勢は厳しく、難題に直面する事も多いでしょうが、現実から逃避し安易な行動を取ることなく、問題としっかり向き合う勇氣と気概を持って欲しいと思います。自分だけで生きてきているのではなく、両親・家族・友人など多くの繋がりの中で生かされている命の大切さを、今日、もう一度考えていただきたいと思います。

二つ目は、『戦争と平和について』です。

八月十五日は、第二次世界大戦の終戦記念日です。戦後七十八年。海外戦没者二百四十万人、半

数近くの遺骨は、未だに家族の元へ帰ることなく不明となっております。

広島平和記念公園の慰霊碑には「安らかに眠ってください 過ちは繰返しませぬから」と刻まれ、「核兵器は二度と使わない。使わせない」との誓いは、核廃絶平和運動の原点となっております。

「核なき世界」の実現を改めて呼びかけ、核廃絶に向けた具体的な「行動計画」を採択した核兵器禁止条約締約国も六十八ヶ国となりましたが、残念ながら、日本は、依然として条約批准を拒絶し続けております。

大戦の苦い経験を経て、唯一の原爆被爆国である事を意識し、平和を希求する日本国民の固い決意を込め、憲法の基本姿勢として、『戦争の放棄』を規定した日本の言動が、重要な意味を持つ状況は続きます。

ロシアのウクライナ侵攻、軍事施設への攻撃のみならず、原発・一般住宅・商業施設等への無差別攻撃、そして、核兵器使用への言及は、世界中を震撼させました。

無念の叫びもむなしく、罪無き子ども達、市民を巻き込む戦火は止む事無く続いております。

人種、宗教、文化、思想、経済等々あらゆる点で違いを認め合い、互いに尊重しあいながら、意思の疎通ができる、平和な世界を目指す事をあらためて強く意識しなければなりません。

どうか、皆さんの目線で『戦争と平和について』も考えていただきたいと思います。

皆さんのふるさと福島には、いつでもやさしく迎え、癒してくれる家族や友人、そして、地域の人達がおります。

お盆と正月ぐらい福島に帰って、ゆっくり休ん

でリフレッシュしていただきたいと思いますし、若い皆さんの豊かな感性、多くの視点で学んだ情報を寄せていただければと思います。

本日の二十歳を祝う会を契機に、無限の可能性を秘めた皆さんが、夢と希望をもって果敢に挑戦、大いに喜び、大いに怒り、大いに哀しみ、大いに楽しみ、多くの感動を体験し、自分自身の青春時代を悔いなく燃焼させ、大きく羽ばたく事を心からご祈念致しましてお祝いの言葉と致します。

令和五年八月十三日

福島町議会

議長 溝部 幸基